

〔平成 29 年度決算の概要〕

【資金収支計算書】

(収入の部)

学生生徒等納付金収入は、主として大学・新設学部の学年進行により法人全体の学生・生徒数が前年度と比べて増加し、予算比 20 百万円増加、前年度比 107 百万円増加の 4,466 百万円となりました。

手数料収入は、入学検定料収入が減少したため、予算比 14 百万円減少、前年度比 18 百万円減少の 63 百万円となりました。

寄付金収入は、予算比 20 百万円増加、前年度比 12 百万円増加の 20 百万円となりました。

補助金収入は、予算比では 143 百万円増加したものの、前年度において高校新校舎建築工事に係る補助金収入があったため、前年度比 365 百万円減少の 1,274 百万円となりました。

付随事業・収益事業収入は、予算比 11 百万円増加、前年度比 1 百万円減少の 89 百万円となりました。

受取利息・配当金収入は、預金金利の低下のため、予算比では 2 百万円増加したものの、前年度比 7 百万円減少の 17 百万円となりました。

雑収入は、予算比では 19 百万円増加したものの、前年度よりも私立大学退職金財団からの交付金収入が減少したため、前年度比 8 百万円減少の 128 百万円となりました。

前受金収入は、奨学金支給対象者が想定以上に多かったため、予算比 167 百万円減少、前年度比 76 百万円減少の 761 百万円となりました。

その他の収入は、前年度における高校新校舎建築に係る補助金の未収入金が入金されたため、予算比 1 百万円増加、前年度比は 394 百万円増加の 570 百万円となりました。

その結果、収入の部合計は、予算比 82 百万円減少、前年度比 953 百万円減少の 8,800 百万円となりました。

(支出の部)

人件費支出は、大学・新設学部の学年進行に伴う教員増による人件費増の影響と、勤続年数が比較的長い教職員の退職が多かったため、予算比では 57 百万円減少したものの、前年度比は 63 百万円増加の 3,484 百万円となりました。

教育研究経費支出は、高校 1 号館改修工事に伴う修繕費や短大 2 号館及び蜂の巣校舎の解体工事に係る費用があり、また、報酬委託手数料等が増加したため、予算比 15 百万円増加、前年度比 320 百万円増加の 1,401 百万円となりました。

管理経費支出は、大学開学 20 周年及び高校新校舎竣工記念事業があり、また、その他の経費が増加したため、予算比 13 百万円増加、前年度比 6 百万円増加の 501 百万円となりました。

施設関係支出は、高校1号館改修工事に係る支出があったものの、予算比で62百万円減少しました。また、前年度に高校本館建築工事に係る支出があったため、前年度比でも1,641百万円減少の252百万円となりました。

設備関係支出は、大学本館の空調機や高校1号館改修にかかる備品の購入があったものの、予算比で14百万円減少しました。また、前年度に高校本館建築にかかる備品購入等の支出があったため、前年度比でも89百万円減少の111百万円となりました。

資産運用支出は、退職給与引当特定資産繰入支出29百万円、収益事業元入金支出30百万円、減価償却引当特定資産への繰入71百万円の合計額であり、退職給与引当金の増加に伴い退職給与引当特定資産繰入支出が増加したため、予算比では29百万円増加しました。一方、前年度比では74百万円減少の130百万円となりました。

上記の結果、翌年度繰越支払資金は予算比130百万円増加、前年度比502百万円増加の2,955百万円となりました。

【事業活動収支計算書】

(教育活動収支)

教育活動収入は、学生生徒等納付金等の増加により予算比139百万円増加、前年度比84百万円増加の5,948百万円となりました。

教育活動支出は、予算比では4百万円減少したものの、人件費、教育研究経費、管理経費が前年度より増加したため、前年度比は398百万円増加の6,017百万円となりました。

その結果、教育活動収支差額は予算比144百万円増加、前年度比313百万円減少の△68百万円となりました。

(教育活動外収支)

教育活動外収入は、予算比では2百万円増加したものの、受取利息・配当金の減少により、前年度比は7百万円減少の17百万円となりました。

その結果、教育活動外収支差額は予算比2百万円増加、前年度比7百万円減少の17百万円となり、経常収支差額は、予算比145百万円増加、前年度比321百万円減少の△52百万円となりました。

(特別収支)

特別収入は、車両売却差額及び現物寄付等を計上したため、予算比は72百万円増加しました。一方、施設設備補助金が減少したため、前年度比は361百万円減少の106百万円となりました。

特別支出は、図書除却差額を計上したため、また、短大2号館及び蜂の巣校舎の解体撤去に伴い、建物処分差額等が発生したことにより、予算比22百万円増加、前年度比51百万円増加の115百万円となりました。

その結果、特別収支差額は、予算比50百万円増加、前年度比412百万円減少の△9百万円となりました。

(当年度収支差額等)

基本金組入前当年度収支差額は、前年度よりも学生生徒等納付金が増加したものの、施設設備補助金が減少し、高校1号館の改修に伴う修繕費や短大2号館及び蜂の巣校舎の解体に伴う資産処分差額を計上したことなどにより、予算比215百万円増加、前年度比733百万円減少の△61百万円となりました。

基本金組入額合計は、高校1号館改修工事に係る第1号基本金への組入125百万円、除却した蜂の巣校舎に係る第1号基本金の減少132百万円などがあり、予算比240百万円減少、前年度比1,396百万円減少の78百万円となりました。

その結果、当年度収支差額は予算比455百万円増加、前年度比663百万円増加の△139百万円となりました。また、基本金取崩額99百万円があり、翌年度繰越収支差額は予算比489百万円増加、前年度比40百万円減少の△2,763百万円となりました。

【貸借対照表】

資産の部において、有形固定資産は、短大2号館及び蜂の巣校舎の解体による建物、構築物の減少などにより、前年度末比360百万円減少の14,142百万円となりました。

特定資産は、退職給与引当特定資産が29百万円、減価償却引当特定資産が71百万円増加したことにより、前年度末比100百万円増加の5,962百万円となりました。

その他の固定資産は、収益事業元入金が増加等により、前年度末比30百万円増加の606百万円となり、固定資産合計では前年度末比231百万円減少の20,710百万円となりました。

流動資産は、主として現金預金が増加したため、前年度末比143百万円増加の3,174百万円となりました。

その結果、資産の部合計は前年度末比90百万円減少の23,883百万円となりました。

負債の部においては、退職給与引当金及び未払金は増加したものの、主として前受金が減少したため、負債の部合計は前年度末比29百万円減少の総額2,109百万円となりました。

純資産の部において、基本金は、蜂の巣校舎の除却等により第1号基本金が減少したため、前年度末比21百万円減少の24,537百万円となりました。

繰越収支差額（翌年度繰越収支差額）は、2.事業活動収支計算書（4）当年度収支差額等で述べたように、前年度末比40百万円減少の△2,763百万円となりました。

その結果、純資産の部合計は前年度末比61百万円減少の21,774百万円となりました。

以 上